

住民研修:「事例発表会」の概要票

テーマ	住民と行政の協働による町並み保存運動の推進にむけて
趣旨と進め方	<p>全国の伝建地区を活かしたまちづくりを取り巻く環境は、伝統的な建築物等の老朽化、町並み保存の技術者の育成、少子高齢化の深刻化、住民団体の後継者不足、空き家・空き地の増加など様々な課題が山積している現状にあります。一方で、私たちは地域固有の歴史的文化遺産を各市町村民共有の財産として、後世に伝え残していくためには、これらの様々な課題を着実に解決していかなければなりません。</p> <p>そこで、「事例発表会」では、各地の住民団体が知恵を出し活動している事例について発表し、参加者から質問を受けながら、各地域の直面している課題の解決の糸口を模索します。</p>

日時	会場	講師等の氏名	講師等の所属・役職	プロフィール
5月16日(水) 14:00~15:40	おりなす八女大ホール	コーディネータ おおもり ようこ 大森 洋子	久留米工業大学教授	1958年(S33年)福岡県八女市黒木町生まれ。博士(芸術工学)、1級建築士。大森設計室を経て現職。2010年よりNPO法人全国町並み保存連盟理事
		発表者等の氏名(ふりがな)	発表者等の所属・役職	プロフィール
		みずやま せいご 水山 清吾	NPO法人塩田津町並み保存会(嬉野市塩田津)	1955年(S30)佐賀県嬉野市生まれ。2002年塩田職人組合のメンバー。2006年NPO法人塩田津町並み保存会・理事。2009年より同上の事務局を担当
		タカハン ケンイチ 高橋 賢一	NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会(香取市佐原)	1945年(S20)茨城県大子町生まれ。教員、県・市行政職中に町並み保存活動。1998年小野川と佐原の町並みを考える会・世話人、2004年NPO法人化・理事、2006年より理事長に就任。2010年NPO法人全国町並み保存連盟・事務局長
		タネダ ユキマサ 種田 幸正	入来麓伝建地区保存会(薩摩川内市入来麓)	1930年(S5年)鹿児島県薩摩川内市生まれ。2003年入来麓伝建地区保存会理事。2006年入来麓伝建地区保存会会長

コメント	大森 洋子	町並み保存は、地域住民と行政が町並みの価値と課題を共有し協働で進めていかないと、将来にわたる活動は続けられません。各地区の課題とそれらを解決するための住民と行政の役割について考えてみたいと思います。
	水山 清吾	塩田津は重伝建の選定を受けて以来6年を過ぎましたが、徐々に注目されるようになりました。地区住民の意識も少しずつ変わってきている様に思います。しかし高齢化による一人暮らしの世帯や空き家の増加はご多分に洩れず進行中であります。修理をしたいが後継者が一緒に住んでいない、高齢でもあり気疲れなどで病気になる不安があるなど様々です。今回このような課題について、他の地区の皆様と一緒に考え、解決策のヒントを見出すことが出来ればと思っております。

ト ・ 意見	高橋賢一	佐原は東日本大震災で、震度5強の強烈な横揺れが長く続き甚大な被害をこうむった。最も大きな被害は、3500haにも及ぶ液状化により5000棟の家屋に及んだ。町並み保存地区は、液状化はなかったものの半数程の家屋に大なり小なりの被害を被った。当会は、保存地区の建物が壊されることの無いように民から民への支援を行っている。その活動内容を紹介する。
	種田幸正	平成15年12月の保存会結成から、地区内見学者への案内や景観美化活動に取り組んできました。高齢化の問題や空き家の増加など、他の伝建地区における課題と同様の問題を抱えています。今回、先進地区の皆様の取り組みを参考に、入来麓なりの解決策を見出すことができればと考えています。また、公開施設をどのように活用されているかなどについても勉強することができればと思います。

当日スケジュール	13:30～	開場
	～14:00	参加者へ質問用紙配布
	14:00～14:02	開会あいさつ :司会(八女実行委員会)
	14:02～14:15	コーディネーターのガイダンス(発表者の紹介含む)
	14:15～15:15	「事例発表」(1名20分程度)
	15:15～15:20	参加者から質問用紙の回収
	15:20～15:35	コーディネーター・発表者による質問への応答
	15:35～15:40	コーディネーターのまとめ
	15:40	閉会あいさつ